

地球 Earth

私たちが日々暮らしている地球。宇宙に浮かぶ青く美しいこの惑星には、魅力と不思議がたくさん詰まっています。毎日当たり前のように過ごしていますが、実はこの星はとても奇跡的な存在です。宇宙には数えきれないほどの星がある中で、水も空気もあり、生命が存在するのは今のところ地球だけです。地球は太陽系の3番目の惑星で、形はほぼ回転楕円体です。赤道半径は約6,378km、極半径は約6,357kmです。内側は地殻、マントル、核の3層構造から成り、外側には私たちが暮らす陸と海、そして大気があります。地球は「生命の星」と言われ、表面は約70%が海です。大気中に約21%の酸素があり、私たちは呼吸することができるのです。地球は1日に1回北極星を先端にして延ばした自転軸を中心に反時計回りに回っています。これを「自転」と言います。また、地球は太陽の周りを1年間に1回、回っています。これを「公転」と言います。

地球の誕生は約46億年前のことで、太陽系の誕生と同時期、宇宙空間のガスや塵が集まってできたのが地球です。そして、最初の生命は、海の中で生まれた単細胞生物（バクテリアのようなもの）でした。これが長い時間をかけて進化し、約20万年前についに私たちの祖先と言われているホモ・サピエンスが誕生したのです。

利用案内

- 投影日時**
- 土曜・日曜日共通 1回目 11時00分～11時30分 2回目 15時30分～16時
 - プラネタリウムの投影スケジュールにつきましては、児童センターまでお問い合わせいただくか、児童センターだより、ホームページ、伊勢崎市社協公式SNSにてご確認ください。
 - 入場は投影開始15分前からです。
 - 定員 100名
 - プラネタリウムの投影は大人から子どもまで、誰でも観覧できます。但し、未就学児の観覧には保護者の同伴が必要です。
 - 途中入場・再入場はできません。

ご案内図



- 休館日**
- 毎週火曜日、祝日（5月5日を除く）
 - 年末年始（12月29日～1月3日）

- 観覧料**
- 無料

- 交通案内**
- 電車：東武伊勢崎線「新しいせさき駅」下車 徒歩20分
 - いせさきコミュニティバス「あおぞら」4 境シャトルバス：「児童センター」下車 徒歩0分

入館の際は、「児童センター利用簿」の記入をお願いしております。
また、投影は予告なく変更または中止になる場合がありますのでご了承ください。

公式ホームページ・SNSはこちらから



<https://ise-shakyo.or.jp/>



ID : isesakishakyo



ID : @isesakishakyo



伊勢崎市児童センター

〒372-0023 伊勢崎市粕川町1609 TEL. 0270-23-6463 FAX. 0270-23-6477



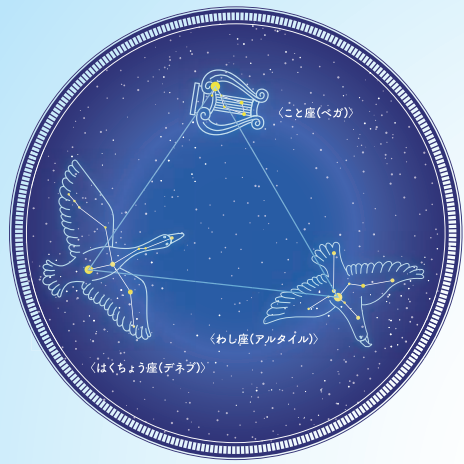
伊勢崎市児童センター

プラネタリウム

2026 夏 - 2027 春 No.164



社会福祉法人
伊勢崎市社会福祉協議会



【6月～8月投影予定】

夏 summer のプラネタリウム

『天の川に輝く夏の大三角』

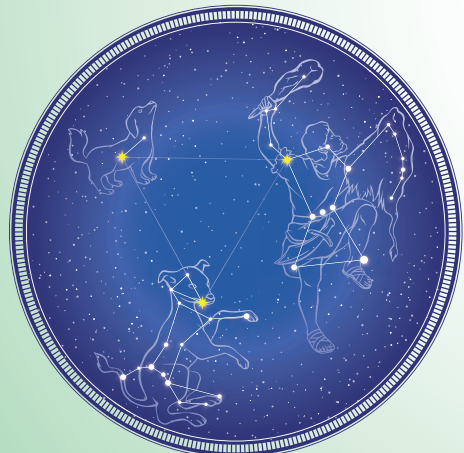
夏の夜空は、明るい星をたくさん見ることができます。東の空には、七夕のお話に出てくるおりひめ星（こと座の1等星ベガ）やひこ星（わし座の1等星アルタイル）、少し北には、はくちょう座の1等星デネブがあります。他にも南の空には、さそり座の1等星アンタレスが赤く輝いています。おりひめ星のベガとひこ星のアルタイルの間には天の川が見え、デネブのあたりから2つに枝分かれして雄大な流れとなります。また、ベガ・アルタイル・デネブの3つの星を線で結びと、大きな三角形ができます。これを【夏の大三角】と呼んでいます。夏を代表する星と星座を順に巡ってみましょう。



※1『極大』とは流星群自体の活動が最も活発になること、またその時期を言います。



14日23時を過ぎ、放射点が高くなる15日0時から2時頃で、1時間あたりおよそ60個もの非常に多くの流星が見られると予想されています。条件が非常に良いため、ふたご座流星群を観察するにはまたとない好機と言えるでしょう。



【12月～2月投影予定】

冬 winter のプラネタリウム

『夜空に輝く星座たち』

空気が冷たく冴えわたる冬は、1年中で最も星のきらめきが美しい季節です。なぜなら、明るい1等星が7個もあり、青や赤などさまざまな色の星が見えるからです。そんな多くの1等星の中で、都会の夜の明かりにも負けずに青白く光っているのがおおひぬ座のシリウスです。ほかにオリオン座のベテルギウスとリゲル、こいぬ座のプロキオン、おうし座のアルデバラン、ふたご座のボルクス、ぎょしゃ座のカペラが光り輝いています。この冬の1等星たちを結んでみると、【冬の大三角】と呼ばれる正三角形や、【冬のダイヤモンド】と呼ばれる大きな六角形ができます。宝石のように輝く冬の星座や星を探してみましょう。

秋 autumn のプラネタリウム

『勇者ペルセウスとお化けくじら』

秋は夜空に明るい星が少ないので、【中秋の名月】と言われる日があるほど月がきれいに見えます。また、秋の星はほかの季節にある大三角ではなく【秋の大四辺形】【ペガサスの四辺形】と呼ばれる星の四角形の並びです。その4つの星を目印に、ペガサス座をはじめ、アンドロメダ座・カシオペア座・ペルセウス座・くじら座などの星座を探すことができます。そんな星座たちが織り成すロマンチックなお話もあります。



【9月～11月投影予定】

秋の天体ニュース 中秋の名月

2026年の中秋の名月は、9月25日です。太陰太陽暦^{※2}の8月15日の夜に見える月のことで、中秋の名月をめぐる習慣は、平安時代に中国から伝わったと言われています。日本では中秋の名月は農業の行事と結びつき【芋名月】などと呼ばれることもあります。2026年は9月25日が中秋の名月で、翌々日の27日が満月となり、名月と満月の日付が2日ずれています。中秋の名月と満月の日付がずれることはしばしば起こりますが、今回のように2日ずれるのは少々珍しいことです。さらに、日本独自の風習として、太陰太陽暦の9月13日の夜を【十三夜】と呼んでお月見が行われてきました。十三夜は【栗名月】、【豆名月】と呼ばれたりします。2026年の十三夜は、10月23日です。

※2『太陰太陽暦』とは、明治5年まで日本で使われていた暦です。月の満ち欠けを元に日付が決められていました。



春の天体ニュース

北斗七星を探してみよう

北斗七星という言葉は、星座や星に詳しくなくても一度くらいは耳にしたことがあるのではないのでしょうか。北斗七星は、北の空でひしゃくのように並んだ7つの星です。比較的明るい星ばかりなのですぐに見つかるでしょう。星空の案内役とも言うべき存在です。まず、ひしゃくのふちにあたる2つの星をつなぎます。そしてその直線をひしゃくの口が開いた方向に5倍延ばすと、1つの星にたどり着きます。この星が北極星です。1年中北の空にあって動かない星です。南の空は季節ごとに違った星座で彩られていますが、北の空は1年中見えている星が多く、北斗七星やカシオペア座も方角を知る目印になっています。



春 spring のプラネタリウム

『春の星空さんぽ』

春の夜空は、他の季節にくらべると明るい星の数が少なく、大型の星座が多くあります。1番大きいのがうみへび座、2番目がおとめ座、3番目がおおぐま座です。また、北の夜空を見上げると、水をくむのに使うひしゃくの形に並んでいる7つの星【北斗七星】が見つかります。北斗七星はおおぐま座のしっぽの部分にあたります。ひしゃくの柄（手で持つところ）のカーブをそのまま延ばしていくと、うしかい座のアルクトゥールス、おとめ座のスピカ、そしてからす座とたどることができます。このカーブを【春の大曲線】と呼んでいます。このほかに、【春の大三角】や【ししの大がま】も探してみましょう。



【3月～5月投影予定】